

ニュース

みんなでつくろう！

下宅部遺跡はっけんのもり

第93号【'09-4月号】

発行：下宅部遺跡
はっけんのもりを育てる会
東村山市諏訪町1-6-3
TEL：042-396-3800
発行日：平成21年4月15日

「下宅部遺跡はっけんのもりを育てる会」とは？

3. (目的・事業) 本会は次のことを目的とし、それを達成するための事業を行います。

- (1) 下宅部遺跡を後世に残すためにつくられた遺跡公園「下宅部遺跡はっけんのもり」(所在地 東村山市多摩湖町4丁目3番地)の管理・運営。
- (2) 下宅部遺跡および考古学一般についての知識を広めること。

(会則より抜粋)

下宅部遺跡は、縄文時代の後期から晩期前半(約4000〜2700年前)を中心とし、古墳時代・古代・中世の長きにわたって北川のほとりに営まれた遺跡です。

河原にある遺跡の最大の特徴は、普通なら腐って失われてしまう木の道具や動物の骨などの有機質の遺物が、大量に発見されることです。深さ3メートルの地中で、地下水と泥に包まれることにより、酸化やバクテリアによる分解から守られて、数千年の時を超えて現代によみがえったのです。

こうした貴重な遺跡を保存した場所が「下宅部遺跡はっけんのもり」です。育てる会は、最初「遺跡公園づくりワークショップ」として始めました。下宅部遺跡や周辺地域について学習し、遺跡公園の構想を立てるなど、設計段階から市民参加で行いました。コンセプトは「成長する公園」です。公園の完成・開園がゴールではなく、スタートなのです。

育てる会の活動は、毎月2回の「下

宅部遺跡はっけんのもり」の除草・清掃。縄文体験を行う5月の開園周年イベント「お誕生日会」と11月の「東京都文化財ウィーク」参加イベント。3月と10月の縄文土器づくり教室とその時に作成した土器を焼く4月と11月の縄文土器の野焼き。6月の日帰り研修見学会と9月の一泊宿泊研修。はっけ

んのもりの生物調査や縄文食の材料となるドングリ拾い。遺跡に関係する専門家の先生を招いての講演会。そして会の運営のための会議などを行っています。また、有志による土器部会・アングイン部会があり、小学校への出前授業のお手伝いや、はっけんのもりでの案内も行っています。

企画展

東京都指定有形文化財指定記念

八国山たいけんの里開園記念

水の恵みー下宅部遺跡のすべて

会場 ふるさと歴史館

期間 4月11日(土)〜6月28日(日)

現在、東村山ふるさと歴史館では、

下宅部遺跡の全貌を紹介する企画展を開催しています。「すべて」と銘打ちましたが、とてもとても、展示できているのは下宅部遺跡の極一部に過ぎません。しかし、その一部から、下宅部遺跡の全貌のすざさを想像していただきたいと思っています。「八国山たいけんの里」共々、ご足労いただけましたら幸いです。質問・展示解説はお気軽に申し付けください。



展示会場

会員からの活動報告

「下宅部遺跡の調査成果と今後の課題」―縄文時代を中心に―を受講して

高塚 慎吉

2月21日（土）、勅使河原先生の聞き応えのある講義を受講した。「下宅部遺跡はっけんのもり」に関連した重要な聴取内容を記したい。

1、文化財保護法による保護（周知の埋蔵文化財包蔵地で無い遺跡）

遺跡と指定されていない場所が、公共的開発又は土木工事、その他の事情で掘削され、遺跡が出てきた場合。

出土品の出土等により遺跡を発見したときは、土地の所有者・占有者は、



講演中の勅使河原先生

遅滞なく、現状を変更することなく文化庁長官に届けなくてはいけない。

まさしく、下宅部遺跡は都営住宅建て替え予定地から発見された遺跡で

「周知の遺跡」では無かった。しかし、関係所管の理解と協力の下、調査が可能となった希有の例である。無論その後の発掘は大変ではあったが、成果・収穫の多きものとなった。

2、遺跡の一部を埋没保存

「はっけんのもり」は下宅部遺跡の一部を公園として保存。

横浜の南堀（みなんぼり）貝塚は、中央に広場を持つ縄文時代前期の定型的集落の姿が日本で最初に明らかにされた遺跡であり、発掘調査後、保存された。約30年後に再発掘をしたが、当初の発掘と比較してみると、成果が大きく違っている。30年後の再発掘は技術、科学の水準の進歩で精密な発掘となり、大成果となった。

「はっけんのもり」も当然のことである。残した、発掘してない部分の再発掘の機会が必ずくる。将来が楽しみな遺跡でもある。

3、水辺の遺跡であること

水で密閉された遺跡。温度の一定し

た綺麗な地下水脈が遺跡全体を保護。石器、土器など無機質の遺物が日本各地の遺跡から多く発掘されている。

この結果、縄文人の生活は茶色でくすんだイメージ、野蚕で狩猟生活が主体という固定観念が定着された。

下宅部遺跡は低湿地遺跡で、台地上の遺跡では発見されない有機質の遺物が埋もれていた。水辺の遺跡でしか残らないものが発掘されたのである。

低湿地遺跡としては福井県鳥浜（とりはま）貝塚が有名。ここで初めて縄文時代の縄の現物が発見された。土器への圧痕（縄文文様）でしか見ることでできなかった縄の現物の発掘となった。そして、縄文時代の文化の水準の高さに接することになる。

低湿地遺跡では、このように有機物が数千年以上も保存され現代により見えるわけである。鳥浜貝塚は当時のゴミ捨て場でもあったため、他にも貴重な生活用品が出土した。当時の衣類、漆製品（飾り櫛、食器）丸木舟、食物（水・海産物、獣骨、植物）、自然環境を髣髴とさせる動植物の遺体、等等。

下宅部遺跡でも同様、貴重な発掘物が掘り出されている。極め付きは、河辺に打ち込まれ、杭として使用されていた漆の用材から、漆の採取痕が発見されたのである。縄文人は既に漆を管

理栽培して、大切な道具に着色している。土器の接着剤としても使用していたのが実証されている。

4、八国山たいけんの里 5月開園

本年5月からは、下宅部遺跡から発掘された貴重な遺物がここで展示される。発掘者しかみていない遺物類が展示される。今から楽しみである。

追記

毎年、「はっけんのもり」を育てる会が主宰して、近県の博物館や遺跡を見学している。水辺の遺跡の先輩、福井県鳥浜貝塚を往訪する機会が早く来ればと願っている次第である。水辺遺跡から発掘された遺物の時期的、地域的な比較検討ができればと願っている。

※ ※ ※

縄文土器づくり教室

伊藤 友己

3月29日（日）、ふるさと歴史館にて「縄文土器づくり教室」が開催されました。従来は小学生を対象に、春と秋の二回、野焼きを前に行ってきたが、今回は年齢制限を外したところ、ご年配の方々も何名か参加され、参加者10名、お手伝いの会員4名で約2時間楽しく土器作りを楽しみました。

ご年配の方々は、あらかじめ作りた

縄文アンギン部会

縄文時代の布「アンギン(編布)」を作成しています。下宅部遺跡からも、アンギンを漆で固めた遺物が出土しています。編んだアンギンでコースター、壁掛け絵はがきホルダーなどを作り、販売もしています。いずれは縄文服に挑戦する予定です。編む道具も、会員が手作りで作成したのを使っています。

活動場所：八国山たいけんの里

活動日時：第2・4木曜日、午後1時30分から



アンギン編み

縄文土器部会

下宅部遺跡出土の土器を見本として、土器づくりをしています。他の遺跡からの出土土器も、写真や図面を見てつくります。粘土は、下宅部遺跡の川底から採取した粘土を使っています。この粘土は野焼きに適していて、まず割れることはありません。野焼きは4月と11月に「下宅部遺跡はっけんのもり」で行います。

活動場所：八国山たいけんの里

活動日時：第1・4日曜日、午後1時30分から



土器づくり

平成21年度活動計画

月	日	曜日	育てる会イベント
4	18	土	野焼き・総会
5	31	日	5歳お誕生日会
6	21	日	研修見学会(千葉県市川市・船橋市)
7	18	土	生き物調査
8	15	土	次年度活動計画検討会議
9	12・13	土・日	宿泊研修見学会
10	17	土	どんぐりひろい
	25	日	縄文土器づくり教室
11	3	火(祝)	はっけんのもりへようこそ!
	21	土	野焼き
12	19	土	検討会議・忘年会
1	16	土	下宅部遺跡研修会
2	20	土	講演会
3	20	土	縄文土器づくり教室

これまでの研修見学会

東京都：東久留米市(本邑遺跡・小山台遺跡) 多摩市(東京都埋蔵文化財センター) 品川区(品川歴史館・大森貝塚遺跡庭園)
 北区(飛鳥山博物館) 足立区(伊興遺跡) 練馬区(早宮史跡公園)
 埼玉県：富士見市(水子貝塚公園・難波田城公園) 吉見町(埋蔵文化財センター・吉見百穴) 寄居町(鉢形城跡)
 千葉県：千葉市(加曾利貝塚博物館) 佐倉市(歴史民俗博物館)
 茨城県：美浦村(陸平貝塚・文化財センター)
 神奈川県：横浜市(横浜市歴史博物館・大塚歳勝土遺跡公園)
 群馬県：笠懸町(岩宿文化資料館)
 栃木県：小山市(寺野東遺跡・市立博物館・乙女不動原瓦窯跡)
 宇都宮市(根古屋台遺跡・県立博物館) 鹿沼市(郷土資料展示室)
 山形県：米沢市(原始布古代織物参考館・上杉博物館) 高島町(うきたむ風土記の丘考古資料館) 長井市(古代の丘資料館縄文の森)
 長野県：長門町(原始・古代口マン体験館) 茅野市(尖石縄文考古館)
 新潟県：十日町市(市立博物館・笹山遺跡) 津南町(郷土資料館・沖の原遺跡・農と縄文の体験実習館なじよもん)

い土器のイメージをお持ちになつてい
 るよつてしたが、最初はなかなか思
 ように粘土が積み上げられずボヤきの
 声も聞こえていました。
 それでも時間と共に粘土にもなじ
 み、今回は全員立派な作品を完成さ
 れました。
 出来上がった作品は4月18日に
 「はっけんのもり」で野焼きを行い、
 5月2日に開館する「八国山たいけ
 の里」で展示することになっています。
 5月からは、月2回の会員のための
 「土器作り」のサークル活動も「たい
 けんの里」に移ります。参加を希望さ
 れる方は、お気軽に声を掛けて下さい。



縄文土器づくり教室の参加者と作品

縄文人と植物

イヌガヤとカヤ

イヌガヤは縄文時代の弓によく使われている。緻密で粘りのある樹木である。しかし、名前には「イヌ」が付いている。

植物に名前が付けられる時、人にとって有用性の高い植物から名前が付く。そして、そうした植物に似ているから有用性の低い植物には「イヌ」の文字が加えられる。「イヌ」は動物の「犬」ではなく「否（イナ）」であるらしい。イヌガヤは「カヤにあらず」という意味の名前である。

カヤは長命で大樹となり寺社の御神木となっているものも多い。木材としても耐久性があつて緻密で重厚、芳香性があり、樹脂が多いので使い込みにつれて艶がよくなり風合いが増す。碁盤としての用途が最も有名である。それに比べて見た目はよく似ているのに使われる物にならないということで「イヌガヤ」ということか。

人にとって有用性の低い樹木は、里山などの人の手入れが行き届くところでは淘汰されてしまう。狭山丘陵の中

をイヌガヤを求めて歩き回ったが、見つかったのは一本の幼木だけだった。周りには成木がなく、鳥が種を運んだようだ。イヌガヤという名で呼ばれ始めた頃からイヌガヤの不遇は始まったのだろう。しかし、縄文時代のイヌガヤは、おそらく「弓の木」といった意味の名前で、カヤと同様に大切にされていたと思う。

下宅部遺跡からの出土木材で「両端切断材」と呼んでいる面白い資料がある。長さ30センチ前後に切断した木材で、樹種は、カヤ五点、イヌガヤ二点、イヌエンジユ・ヤマグワ二点、クリ・コナラ一点である。

これらの樹種の現代での用途を調べてみると、カヤ・イヌガヤ・イヌエンジユ・ヤマグワは、いずれも彫刻用もしくは細工用であるという共通点を持つ。下宅部遺跡の出土品の中でも、装飾性の高い漆塗りの杓子や匙はイヌガヤで作られており、緻密な材質で細工がし易く、彫刻や細工に適しているという木の特性に合致している。また、

クリも容器の材料であり、容器未成品も出土している。こう見ていくと、両端切断材は容器などの素材として切り出されたものと考えられる。

樹種による木材の特性は、縄文時代も現代も変わらない。現代の利用方法から縄文時代での使い方思いを馳せるのも面白い。(千葉)

ダウンロードのお知らせ

「みんなでつくろう！下宅部遺跡はっけんのもり」の各号を、インターネットからダウンロードすることができます。「東村山市ホームページ」→「ふるさと歴史館」→「下宅部遺跡」→「はっけんのもり」→「ニュース」と開くか、検索サイトで「下宅部遺跡はっけんのもりニュース」で検索をかけて下さい。カラーでご覧いただけます。

育てる会 会員募集

みなさんも育てる会の仲間たちと一緒に、下宅部遺跡はっけんのもりを成長させませんか？

- 正会員：会費年間1200円
- 通信会員：会費80円切手12枚
- お申し込み：ふるさと歴史館
- 042(396)3800まで

育てる会

今後の予定

- 4月18日(土) 午前10時から
第84回育てる会「縄文土器の野焼き」
(はっけんのもり)
- 午後5時30分から
総会(多摩湖ふれあいセンター)
- 午後6時30分から
懇親会(多摩湖ふれあいセンター)
- 4月23日(水) 午後1時30分から
縄文アンギン部会・開園準備
(八国山たいけんの里)
- 4月26日(日) 午前10時から
縄文土器部会・開園準備
(八国山たいけんの里)
- 5月2日(土) 午後1時から
八国山たいけんの里
開園記念イベント
(八国山たいけんの里)
- 5月6日(水)
- 5月6日(水) 午後7時30分から
定例検討会議(ふるさと歴史館)
- 5月9日(土) 午前8時から
除草・清掃作業(はっけんのもり)
- 5月13日(水) 午後1時30分から
ニュース印刷発行(ふるさと歴史館)
- 5月16日(土) 午前10時から
縄文体験塾(ふるさと歴史館)